

私が茶道部を選んだのは…

愛知県立豊田北高等学校1年（愛知県）

小野田 佑夏

ふわっと香るお茶と畳の良い香り。その香りが日頃の生活から気持ちをリセットさせてくれる。

高校に入学してすぐの4月。私はどの部活に入ろうか、どんなことに挑戦してみようか、とずっと迷っていた。その中で興味があった茶道部に入部することにした。

入部の日、緊張しながら作法室の中に入り、茶道部や裏千家についての説明があった後、先生に尋ねられた。

「みなさんが茶道部を選んでくれた理由は何ですか」

私には「和」の雰囲気が好きだから、という理由があったが、茶道の事は何も知らなかった。もっと茶道の事を知って、明確な目標をもちながら取り組みたい。そう決めた。

先生のお話を聞いた後、先輩が点ててくださったお茶をいただいたりお点前を見る時間があった。その中で私が一番驚いたのは目線だ。「お茶をどうぞ」という一つの動作の中に相手の目を見て言葉に想いを込める。茶道を始めたばかりの頃は動きを覚えるだけで精いっぱいだったが、何回か稽古していくうちに気づいたことがある。それは『聴く』ということだ。相手の想いに対して礼をするだけではなく、自分の耳と目で聴いて、心で受け取る。そうすることで私たちが言葉を発しなくても、不思議と相手と会話したような気持ちになる。茶道を見ていて心がほっと温くなる理由の一つでもあると思う。また、茶道を通して「気づき」の大切さを学んだ。お稽古は準備をしなければ始められず、片づけをしなければ終わることができない。限られた時間の中で気持ちよく稽古していくために道具の準備・片づけなど自分にできることはたくさんあると思う。とは言っても私は茶道を始めたばかりで学んだことはまだまだほんの一部に過ぎない。でも、

「あなたが茶道部を選んだ理由は何ですか」

そう聞かれても今なら自信を持って答えられる。そして、その答えもこれからたくさん学び、茶道の事を知っていく中で何度も変化していくだろう。